



# APAYeNEWS

アジア・太平洋Y M C A同盟月報 No.01/2011 1月

翻訳協力：荒木勇磨 / 伊藤剛士

## 1. 2011年常務委員会及び常置委員会の開催

2011年3月9～11日に、アジア・太平洋Y M C A同盟常務委員会及び常置委員会が香港で開催されます。初日にはAPAY ガバナンスモデルについて討議される予定になっています。今年は2007～2010事業計画(QPP)最後の年であり、常置委員会ではこれまでの活動の振り返りと提案が行われます。各国同盟総主事会議は8日午前9時から午後5時まで開催されます。常務委員会に先立ち、QPP評価チームと第18回アジア・太平洋大会運営委員会のミーティングが、ユースグループ、ライティンググループとともに開かれます。ユースワーキンググループは3月12-13日に第2回ユースアSEMBリーに向けての準備も行います。

## 2. 各国Y M C Aの最新情報

### オーストラリアY M C AにCEO代行が就任

オーストラリアY M C Aは、常議員会によりPeter Malone氏をCEO代行に選んだことを発表しました。これはKatherine Pengilly氏の退任に伴ったものです。議長のMorton氏によると「今後の活動に関し慎重に検討した結果、委員会はCEO代行を選ぶことを決定しました」とのことです。Peter Malone氏はY M C A内ではよく知られており、長年にわたってローカル、全国レベルでボランティア活動に従事し、常議員会議長として活躍されました。Malone氏のCEO代行就任にともない、常議員は退くこととなります。

### スリランカY M C A同盟に新総主事が就任

Lakshan Dias氏は2011年2月1日より、スリランカY M C A同盟総主事に就任しました。Lakshan氏はこれまで25年間、Y M C Aの一員として精力的に活動されてきました。スリランカではMoratuwa Y M C A、Dehiwala Y M C A、Kandy Y M C A、及び、同盟での仕事を経験してきました。Dias氏はスリランカの高等裁判所における弁護士でもあり、国内避難民の保護を中心とした人権擁護活動家、熱心なエキュネリストという面も持っています。Aruna委員長は、Dias氏の宗派を超えた人道的活動は、スリランカにおけるY M C Aムーブメントにパラダイムシフトをもたらすものであり、この国に新たなうねりをもたらすことが期待されています、と言われています。Dias氏は、2004年から2007年にはアジア・太平洋Y M C A同盟主事を務めました。

お二人の新しい門出にお祝いを申し上げます。

### スリランカの洪水とY M C Aによる取り組み

スリランカY M C A同盟 Charith De Silva 氏の報告

12月末からの豪雨はスリランカ東部の県で多くの被害をもたらしました。1週間の降雨量は1923年以降で最高を記録しました。BatticaloaとAmpara地域は何週間も水浸しになり、地域内

の9つのYMCA全てが被災しました。インフラ、設備の多くが損傷、リーダー・メンバーたちも非難をしました。被害の少なかったYMCAは、スリランカYMCA同盟内に組織された救援委員会の計画に従い、救援活動を開始しました。緊急救助活動として、水、食料、医薬品、その他必要物資を準備し、総額2,281,060スリランカルピー（約168万円）相当の物資を、被災した9つのYMCAに送りました。支援物資集積センターも準備され、ボランティアが救援活動に参加しました。



スリランカYMCAはまた、被災児童のための教育支援プログラムを実施しています。セーブ・ザ・チルドレンの地域担当者によると、約40万人の子どもたちが食糧不足による栄養失調状態にあるとのこと。現地を訪れてニーズ調査を行ったスリランカYMCA同盟スタッフによると、その大きな課題として清潔な水、衛生環境が必要とのこと。洪水は当地域の水源を汚染してしまいました。特に、高齢者、障がい者、妊婦、産後間もない母親、子どもは特に注意して見守らなければならないと述べています。スリランカYMCA同盟の救援委員会は各地域のYMCAでの救援委員会設立を支援しており、どのような災害が起こっても地域レベルで支援が行える体制を構築しています。

スリランカ支援のために特別の貢献をしていただいた、カナダYMCA、シンガポールYMCA、日本YMCAに御礼申し上げます。

\*日本のYMCAからは緊急支援として国際協力募金より5千ドルを送金しました。

#### IAVE ユース会議 2011(シンガポール)へのYMCAユースの参画

2011年1月21-23日、シンガポールYMCAは、ボランティア活動推進国際協議会(IAVE)ユースカンファレンスをシンガポール経営大学にて共催しました。会議には28ヶ国から439名のユースが参加し、これまでで最大規模のIAVE ユースカンファレンスとなりました。YMCAからはカンボジア、香港、インドネシア、フィリピン、タイから計9名のユースが参加しました。彼らは「世界を変えるボランティア」というテーマに基づいたIAVE 奨学金プログラムの支援を受け、シンガポールYMCAからの参加者40名とともに参加しました。カンファレンスを通して、参加者は無数の活動を体験し、その中には14の地域組織によるサービスプロジェクト、15人のリソースパーソンによるワークショップが含まれています。本カンファレンスは、IAVE とシンガポールボランティア及びフィランソロピー(NVPC)によって開催されました。



(写真はシンガポールYMCAによる、海外のYMCAからの参加者に対する歓迎会の様子。シンガポールYMCA カンファレンス実行委員長/APAY ユース委員の Oliver Loke 氏による報告)

#### 良きアジアの友 ~ 第5回 Raonatti 国際ボランティアサービスプログラム

韓国YMCA連盟主催の国際ボランティアサービスプログラム、第5回 Raonatti に参加する30名のユースが選ばれました。3週間のトレーニングプログラムに参加した後、第4回の参加者と引き継ぎのために会うこととなります。2011年1月12-18日、韓国YMCA連盟は5つのホストYMCA(マレーシア：クアラルンプール、ペナン/ベトナム：Moratuwa/タイ：チェン

マイノフィリピン：Nueva Ecija)のコーディネーターを招き、これまでの評価と今後の計画決定を含めた実り多き会合を、ソウルで開催しました。

韓国Y M C A連盟コーディネーターのAna Lee氏はRaonattiがアジアの多くのユースにとって触媒になれることを期待しており、ユースが成長し地球市民になれることを望んでいる、と述べました。また、参加者による振り返りも紹介されています。

Minha Lee氏(第2回参加者)：フィリピンからの帰国後、私はNGOに関するダブルメジャーに集中しています。現在、私はNGOの活動の一環として、韓国Y M C A連盟にてインターンシップを行っています。先週、私はRaonattiプログラムを担当する12名の国際コーディネーターを迎えました。韓国で彼らに会えたことは幸せであり、寺院で素敵な時間を過ごすことが出来ました。仏教について学んだだけでなく、瞑想を通して自分自身について考える一時を持つことができました。

Eunsol Lee氏(第3回参加者)：私はマレーシアチームに所属しています。我々のチームは聴覚障がい者のためのY M C A国際キャンプにボランティアとして参加しました。手話をとおして私たちはコミュニケーションをとることができ、良き友となることができました。私は健常者であろうと障がい者であろうと友人になれることに気付きました。このような機会をいただけたことに感謝します。また、日中韓Y M C Aピースフォーラム(2011年に1月20-22日)に通訳として参加できたことにも感謝します。多くのY M C Aスタッフ、リーダー達に会えたこと、貴重な情報、議論を聞いたことを幸せに思います。

### 3. 運動強化への取り組み

#### カンボジア：PSGが新計画を発表

カンボジアのパートナーズ・サポート・グループ(PSG)メンバーが、2011年1月14、15日にPSGミーティングを行い、この半年間に行われた活動の振り返りを行いました。今後3年間の戦略計画に関するユースフォーラム、ワークショップも行われました。昨年11月、Yケア・インターナショナルの支援を受け、Y M C Aストリートチルドレンプロジェクトが始まりました。PSGでは、2011年は二つのフェーズ(1~6月、6~12月)で構成された、現実的な年間戦略計画を作成、ガバナンス構築、メンバーシップキャンペーン、リーダーシップトレーニング、教育計画、ストリートチルドレン支援等を、重点項目としています。また、プログラムの対象地域の訪問も行われました。フォローアップ会議は2011年3月25~27日に、再びカンボジアで開かれます。

#### インドネシア：スラバヤY M C AでPSG会議を開催



2011年2月18~20日に、インドネシアのY M C A PSGミーティングが、スラバヤY M C Aにて開催されます。前回会議(2010年10月)に計画された行動に関するレビューを行う予定です。インドネシアY M C A同盟総主事のRetha Andoeaが述べているように、IMKA/Y M C Aスクールは2010年12月12日にクリスマス会を開催しました。プログラムでは促進と気付きのためのコミュニティウォーク、学生によるアートパフォーマンス、無料の糖尿病検査によって特徴付けられ、学生、教員、スタッフ、卒業生、地方政府の担当者が参加しました。PSGの一人である米国Y M C AのMs Boon Chin氏はY M C A再構築について述べました。このイベントはユース育成のためのファンド、S2Sに対する募金活動においても成功しました。

## パキスタン Y M C A : カラチ Y M C A の学びから

パキスタンには2つのY M C Aがあります。一つは1856年に設立されたラホールY M C Aで、これはアジア最古のY M C Aの一つであり、カラチ市の中心部に位置し、市長の官邸のすぐ近くにあります。1月17日~19日に、アジア・太平洋Y M C A同盟副会長であるPaul Le Gros氏と私は、もう1つのY M C A、カラチY M C Aを訪問しました。このY M C A 22,000平方メートルの土地を持っていますが、しかし、長きに渡る土地関連の争いで、このY M C Aは次第にリーダーシップを失い、沢山のプログラムを終わらせなければなりませんでした。

このような致命的な状況にもかかわらず、私たちがここを訪問したとき、科学技術研究所(PI)が、その設立50周年を祝していました。この研究所はドイツY M C Aとドイツ政府から多くの支援を受けています。研究所には、7つの異なる専門分野に800人の生徒がいます。この研究所の卒業生には国際的に認められた人が多いため、研究所はとても評判が良いです。そして、この国際的な評判はY M C Aのブランドによるものです。1989年に研究所は、聖マリア・スクールを開校し、幼稚園から中学生までの子ども達を受け入れています。貧しいコミュニティ(研究所から9キロ離れたところにある)に所属する250人の学生がこの学校に通っています。ここにはカラチY M C Aによって運営されているもう一つの学校があり(小学生から中学生まで)、学校はY M C Aの敷地内に位置し、生徒数は500人、教員数はおよそ50人です。学校には管理者がおらず、生徒の数は減少し、この10年でおよそ生徒の数は半分になりました。研究所とY M C Aスクールは、どちらもY M C Aの土地の中にあります。

カラチY M C Aは、長い間Y M C A関連団体と距離をおいていました。それは、内部の政治的な事情と主導権をめぐる争いのためでした。今回のカラチY M C Aの訪問は、私たちにとって初めての訪問でした。私たちはこのY M C Aが近い将来、本来の役割を果たすように復帰していくことを強く望んでいます。(アジア・太平洋Y M C A同盟 総主事 山田公平)

## 4. GATN (グローバル・オルタナティブ・ツーリズム・ネットワーク) ~ ネパール、真実探求の聖地巡礼ワークショップ

2011年2月19~25日に真実探求のための聖地巡礼ワークショップが、ネパールのLalitpur地区GadavariのSt. John Vianney Pastoral Care Centerにて開かれます。9つのY M C A(ネパール、インド、バングラディッシュ、スリランカ、ベトナム、フィリピン、インドネシア、タイ、ミャンマー)から30人のメンバーと、ICF SOP同窓会のメンバーがこのワークショップに参加します。

このワークショップは、観光業と聖地巡礼の新たな相互発展を目指す詳細なトレーニングを参加者に提供することを目的としています。参加者達は、ツアーコンダクターとしてのそれぞれの経験を分かち合うことが期待されています。Y M C Aグローバル・オルタナティブ・ツーリズムの新しいホームページでも、ここでの分かち合いとマーケティングに関する情報が掲載される予定です。世界教会協議会委員でありコンサルタントでもあるRanjan Solomon氏、コルコタのSCEPTRE Shrachiセンターの司教のWati Longchar氏、ICFのコーディネーターであるMax Ediger氏がリソースパーソンとして招かれます。またアジア・太平洋Y M C A同盟会長であるPark Jai Chang氏が基調講演を行ないます。このワークショップは、アジア・太平洋同盟、ICF、Menonite中央委員会の共催で行なわれます。

## 5. ワイズメンズクラブ国際協会がアジア・太平洋Y M C A同盟地球市民育成プロジェクトを支援します

今年、ワイズメンズクラブ国際協会は、タイムオブファスト基金(TOF)から3万USドルを、私たちのプロジェクトである「ユースが変革をもたらすための地球市民教育(GCE)」に充てることを承認いたしました。このプロジェクトは、今日の国際社会の現実と、それによる私たちのコミュ

ニティへの影響をコースに認識させ、その解決に向けた能力と未来への責任感を養おうとするものです。このプロジェクトを通して、コースが地域コミュニティでの問題解決に向けたスキルを身につけていくことで、コースが地域社会に参画していくことが可能になります。このプロジェクトでは、人材養成を進めることにより、各国地域で合計約 360 人のコースがこのプログラムに参加していくことを目指します。コースには特に各地域 Y M C A で取り組むべき課題に関していくことが期待されています。

## 6. ICF の準備のためのミーティングが開かれます

異なる宗教間の協力に関するフォーラム(ICF)の準備のためのミーティングが、2月7日～9日にかけてフィリピンのDavaoにて開かれます。これには準備委員会であるアジア・太平洋同盟とアジア教会協議会のメンバー・スタッフ・プロジェクト主催者と、各国内コーディネーターが加わります。ミーティングの後半は、各国家レベルでICFのメンバーの活動を活発にしていくための、地域レベルでのICFの活動の発展的な取組みについて行います。各国内コーディネーターは、平和のための学校(スクールオブピース：SOP)を修了したそれぞれの国の人の中から選ばれます。すなわち、ミャンマー、タイ、カンボジア、インドネシア、ネパール、フィリピンといった、ICFの活動が広く国内で認められている国々の人々です。過去数年の活動の見直しや 2011 年～2014 年の間の計画の審議だけでなく、国内コーディネーターや執行委員会の役割や責務に関しても、参加者の間で話し合われる予定です。

## 7. 東北アジア協議会にて、各国共通のアクションへの合意が得られました

香港、日本、韓国、マカオ、台湾の Y M C A から 23 人の参加者が、2011 年 1 月 22 日～24 日に韓国の仁川で開催された第 1 回 Y M C A 東北アジア協議会に集いました。アジア・太平洋同盟会長である Park Jai Chang 氏と、人権財団の執行ディレクターである Anselmo Lee 氏が基調講演を行いました。リソースパーソンとともに、参加者たちは、東北アジアの今日の歴史的文脈、新たに浮かび上がってきている問題、実現可能な具体的な解決に向けた手段とリーダーシップやリソースについて話し合いました。この協議会では、今日の国際社会は、アジア、特に北東アジアを、ますます経済的に力をつけている国々と見ていると考えました。政府や経済研究所によると、東北アジアの非営利諸団体は、世界秩序においてますます大きな役割を果たすようになってきていると言われています。フォーラムでは、現実を認識するため、軍隊による安全保障と人間の安全保障、高齢化と成熟化、経済の持続的発展と生態系の持続的発展、人権を否定するものとしての貧困と自由主義の発達に関する新しい枠組みが提唱されました。Jong Sun Noh 氏、Sung Hwan Jun 氏、Marie Myung Hee Lee 氏、そして HyunSe Cho 氏のそれぞれが、正義と平和、気候変動、社会的企業、そして高齢化という各テーマに関するグループディスカッションにおいてファシリテーターをつとめました。山田公平氏からは、これらの諸問題に応じるアクションとしてのアジア・太平洋地域の枠組みを共有しました。参加者たちは将来へのアクションのために、共通のアクションプランを形作りました。そこでは、以下のことが必要であると述べられました。

- 1) 従来の YMCA プログラムやリソースモビリゼーションから、よりよいパートナーシップ方針に基づいて、相互に横につながるパートナーとなること。
- 2) 新たに浮かび上がってきた問題に対し、歴史的な文脈を踏まえた意義深い対応をすること。
- 3) コースのリーダーシップ養成と参画のために、使命に基づいて鋭くコミットしていくこと。
- 4) 東北アジアにおけるより大きなインパクトに向けたプログラムのための戦略を形作っていくこと。
- 5) ソーシャルメディアの更なる活用を通して、関係者と直接のコミュニケーションと、公共へのインパクトを増すことを目指す。
- 6) 「変革」への準備、そして「変革」を実現していくこと。これらを各国のリーダーシップ

のもとで実現していきます。このような非常に有益なフォーラムのホストを務めてくれた韓国YMCA連盟に、私たちは感謝しています。

\*日本からは中川善博氏（日本YMCA同盟理事長）、島田茂氏（日本YMCA同盟総主事）が出席しました。

## 8. お悔やみ

インドYMCA同盟元総主事(任期：1988年4月～1994年4月)であったKavalimakal Pothan Philip氏が2011年1月11日に逝去されました。1959年の奉職から総主事を務め終わるまで、彼はプロフェッショナル・スタッフとしてYMCAのあらゆる役職・仕事に携わっていました。彼の在職期間における新たなプロジェクトや堅調な歩みは、インドにおけるYMCA運動を強固なものとしていきました。彼は、妻のKunjamma氏と2人の子ども、そして家族を残して旅立たれました。

ご遺族とインドYMCAに、心からお悔やみ申し上げます。

## 9. あなたのYMCAの情報をお寄せ下さい

各国YMCAにて行われているプログラムの報告、ニュース、情報などを、ぜひお寄せ下さい。このAPAYeNews（月刊）は、各国・地域におけるYMCAの活動の分かち合いが、それぞれのYMCAでの新たな活動へのモチベーションに役立ちたいと思っています。[ニュースや情報は cristina@asiapacificymca.org](mailto:cristina@asiapacificymca.org) まで送ってください。締め切りは各月の第3週までです。APAYでは、みなさんのYMCAのストーリーを求めています。

## 10. 今後の予定

日程	イベント	場所
2月19～25日	真実探求の聖地巡礼ワークショップ	ネパール
3月8日	アジア・太平洋地域YMCA総主事会議 第18回アジア・太平洋YMCA大会準備委員会（ユースアッセンブリー準備委員会・ライティングチームミーティング併催）	香港
3月9日(午後2時)～12日(午後1時)	アジア・太平洋YMCA同盟常務委員会・常置委員会	香港
3月12～13日	第2回アジア・太平洋ユースアッセンブリー準備委員会	香港
9月3～6日	第2回アジア・太平洋ユースアッセンブリー	マレーシア・ペナン
9月6～10日	第18回アジア・太平洋YMCA大会	マレーシア・ペナン

## 11. 総主事デスクより

### 2011年 今総会期最終年にあたって

今年9月に行われるアジア・太平洋YMCA大会では次のような流れを検討している。  
テーマは、“Breaking Barriers, Transforming Lives”で、「壁を乗り越え、変革を人と社会と

YMCAに」というような訳となる。これまでさまざまな国のYMCAを訪ね、経験してきたことから感じたことは、社会がどんどん変化しているのに多くのYMCAは、これまでと同じ活動の運営に精力を注ぎ、徐々に変化している社会ニーズへの対応に遅れをとっているのではないかと。どのようにYMCAはこの壁を乗り越え、新しい課題に大胆にチャレンジしていけるようになるか。世界的な課題でもあり、どの国にいても感じるのは環境の変化、急増する移民、人口の高齢化、若者の精神性や霊性への無関心、などである。そしてYMCAという青年団体に青年の担い手や参画が少なくなってきた現実も多くのYMCAで見られる。さらには、この地域にあるYMCA運動の半分近くが非常に基盤が弱いという事実である。モンゴル、パプアニューギニア、サモア、タヒチなどは存在すらも危ぶまれる状態。カンボジア、東ティモール、フィジー、ネパール、インドネシア、パキスタン、ベトナムなど7カ国を中心に支援をしないと孤立してしまう可能性もある。

ここ数年、アジア・太平洋同盟は、地球市民育成、YMCA運動強化、ユースリーダーシップの強化と寄付文化の醸成を挙げて活動を展開してきた。このような活動をさらに全体的に広げるには、十分な協議をし、納得の上で今後4年間の方針と共通の意識を作り上げることが肝要になる。具体的には、ユースのネットワークを強化し、研修機会を増やし、社会的な課題に果敢に取り組む場をYMCAが提供できるようにすること、そのための資金を用意すること。さらに弱い基盤のYMCA運動を強化する働きに多くのYMCAが参加することなどが求められている。

今年、2011年は、これまでの働きを評価し、何が達成できたか、今後どういう方向に進むのか、どのようにしてこれらの課題が関係する国々によって共有されるか。この総会でこれからの4年間の働きを共に考えてもらいたいと願っている。

YMCAの特徴は、各地に存在する社会問題に関心を持ち、それに積極的に関わろうとする若者、ボランティアを生み出すことではないか。YMCAの強みは、独自の事業(学校や体育館運営など)を持ちながら、多くの人たちを巻き込んで社会運動を起こす力と持続性を持つところだと感じている。そんなYMCA作りを生み出せないか、それが今回のアジア・太平洋YMCA大会のねらいにある。

アジア・太平洋YMCA同盟 総主事 山田公平  
主任主事 Cristina A. Dalope & Jose Varghese

---

### アジア・太平洋YMCA同盟

23 Waterloo Road, 6<sup>th</sup> floor, Kowloon, Hong Kong  
tel. 852-2780 8347, 2770 3168, 2783 3058; fax 852- 2385 4692  
e-mail - office@asiapacificymca.org

---